

ばにばにベンジャミン のはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくほ ゆう やく

ばにばにベンジャミンのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく



ばにはにパパさんから ソーリーじゅうの こどもたちへ



あるひの あさ 1ぴきの こうさぎが、 こみちのわきの どてに すわっており
ました。

みみを たてて こうまの パカラン パカランという あしおとを きいていたの
です。

みちを すすむのは 1だいの ばしゃで、 うんてんしゅは マグレガーおじさん
、 わきには よそいきの ぼうしを かぶった マグレガーおばさんも いました。



ばしゃが いってしまおうと、 ばにばにベンジャミンくんは すぐさま みちへと
すべりおりて、 かけだしました ー ひょい、 ぴょんぴょん、 びよおうん ー
ー マグレガーさんのおにわの うらの もりに すむ しんせきの おうちを た
ずねるのです。



そのもりには うさぎあなが いたるところに あって、 そのなかでも いちばん きちんとしていて ふかふかなのが ベンジャミンの おぼと そのいとこたち — フロプシー モプシー カトンテル ピーター — の おうちなのです。

あなうさパパは もう いないので、 あなうさママが うさぎの けいとで てぶくろや リストバンドを あんで、 暮らしを たてていました。（わたしも この まえ バザーで かったんですよ。） そのほか ハーブや ローズマリーの おちゃ、 あなうさタバコ（いわゆる ラベンダー） なんてものも うっています。



ベンジャミンくんは あまり おばさんとは あいたくなくて。
そこで モミのきの うらに まわったのですが、 あやうく いとこの ピーター
の まうえへ ころげおちそうに になりました。



ピーターが からだを まるめていたのです。 どうも げんきが なさそうで、
あかい わたげの ハンカチに くるまっていたました。

「ピーター。」と ベンジャミンくんの ひそひそごえ。 「おまえ、 ふく、 だれ
に とられたんだよ？」



ピーターのへんじは「マグレガーおじさんのにわのかかしさ。」それからにわでおいかけまわされたこと、くつとふくをなくしたことをせつめいしました。

ベンジャミンくんはいとこのわきにこしをおろしてちからづよくかたります。マグレガーおじさんがばしゃでかけたこと、おばさんもいっしょだということ、しかもよそいきのぼうしだったから1にちじゅうでかけっぱなしだとすることを。



ピーターは、あめでも ふればいい、 といいました。

と そのとき、 あなうさママの こえが うさぎあなの なかから きこえてきます。「カトンテル！ カトンテル！ ちょっと カモミールを とってきて！」

ピーターは、さんぽに いけば たぶん きぶんも よくなる、 といいました。



ふたりは てを つないで どんどん あるき、 もりはずれの いしがきの うえ、 ひらたいところに のぼりました。 そこから マグレガーおじさんの にわが みおろせるのです。 ピーターの うわぎと くつが かかしのところに あるのが はっきりと わかって、 あたまには マグレガーおじさんの おふるの ベレーぼう。



ベンジャミンくんが いいます。「さくの したを くぐりぬけたら なんだって
ふくが だめになる。 ナシのきを つたって おりれば うまく しのびこめる
んだ。」

ピーターが あたまから おっこちましたが ことなきを えました。 したの な
えどころが たがやされたばかりで ふかふかだったのです。



そこに まかれていたのは レタスの たねでした。

ふたりは なえどこの あちこちに ちいさく あやしげな あしあとを たくさん
つけます。 きぐつを はいた ベンジャミンくんは とくにもう。



ベンジャミンくのはなしでは、まずやるべきことはピーターのふくをとりもどすこと、そうすればハンカチもつかえるようになるとか。

というわけでかかしははだかにされました。よるのあいだにあめがふったので、くつにはみずがはいついて、うわぎもちょっぴりちぢんでいました。

ベンジャミンはベレーぼうもかぶってみましたがかなりぶかぶかです。



その後 タマネギを ハンカチで つつんで おばさんへの ささやかな おみやげに しようと いいだしました。

ピーターは たのしくなさそうでした。 みみが がんがん しっぱなしなのです。



それに ひきかえ ベンジャミンは まったく わがものがおで、 レタスの はっぱをかじります。 なんでも いつも おとうさんと いっしょに このにわに やってきては レタスをとって にちようびの ごちそうにするのだとか。

(ちなみに ベンジャミンくんのおとうさんの なまえは ばにばにパパさんとい
います。)

もちろん いいできの レタスをです。



ピーターは なににも くちを つけず、 おうちに かえりたいと いいだしました。 とたんに タマネギを はんぶん おっことします。



ベンジャミンくんは、 やさいを せおったままじゃ ナシのきは のぼれないな、
といました。 さきに たって ずかずかと にわの はんたいがわへと あるい
ていきます。 ふたりが とおったのは あかるい いろの れんがべいの した、
いたを わたした こみちでした。

ねずみたちが とぐちだんのところで サクランボの たねを わっていたのですが
、 あなうさピーターと ばにばにベンジャミンくんが とおりすぎたので めを ぱ
ちくりさせました。



そのうち ピーターは またしても ハンカチから てを はなしてしまいます。



ふたりは うえきばちと なえばこと ひらばちの ならんだところへ やってきました。ピーターの みみなりは ますます ひどくなって、めなんか あめだまみたいに はれあがって！

いとこの すうほまえを あるいていたのですが、いきなり たちどまってしまいます。



かどを まわったところ こうさぎたちの めのまえに こいつが いたのです！
ベンジャミンくんは ひとめみた とたん、 すかさず ピーターを タマネギごと
ひっぱって、 じぶんも いっしょに かごの したへと かくれて ……



ねこの おじょうさんは おきあがると のびをして、 こっちへきて かごを く
んくんと かぎました。

もしや タマネギの においが だいすきだとか！

それは さておき かごのうえに のっかってしまって。



5じかんも ずっと そのまま。

* * * *

わたしには かごのしたの ピーターと ベンジャミンを みなさんに かいてあげることが できません。 まず まっくらですし、 タマネギの においが ひどくて あなうさピーターと ベンジャミンくんは なみだまみれでしたから。

おひさまが もりの むこうに ぐるっと まわって、 おひるも だいぶ すぎましたが、 まだ ねこは かごのうえに すわっていて。



はたして そこへ、 ぱらぱら ぱらぱらと モルタルの かけらが へいのうえから おちてきます。

ねこが みあげると、 なんと ばにばにパパさんが たかい いしがきのうえを ゆうゆうと あるいているのです。

あなうさタバコの パイプを ふかして、 てには こぶりの むち。

じぶんの むすこを さがしているのです。



ばにばにパパさんは ねこというものを よくおもってはいません。
いしがきのうえから ねこの あたまを めがけて ちからいっぱい とびかかり、
ひっぱたいて かごから どかし、 さらに けを ひとつかみ むしって おんし
つへと けりいれてしまいました。
ねこは おどろきのあまり やりかえすことも できません。



ばにばにパパさんは ねこを おんしつのなかへ とじこめました。
それから かごのところへ もどると むすこの ベンジャミンの みみを つかん
で ひっぱりだし、 こぶりの むちで ペしんペしん。
そのあと おいの ピーターも ひっぱりだされて。



そうして タマネギの つつみを とりあげると、 にわの そとへと のしのし
でていきました。



その30ぶんほどあとに もどってきた マグレガーおじさんは、 あちらこちらのようすが どうも みょうなことに きづきました。 だれかが にわじゅうを きぐつで あるきまわったみたいなのに —— そのあしあとと きたら おかしなほどに ちいさくて！

それに なぜだか ねこが じぶんから おんしつのなかへ とじこもって、 かぎも そとから かけていたのです。



おうちへ かえった ピーターですが、 おかあさんは おこりませんでした。 むすこが じぶんで くつと うわぎを みつけてきたと わかって うれしかったのです。 カトンテルと ピーターは ハンカチを きちんと たたみ、 あなうさママは タマネギを しばって だいどころの てんじょうから つるしました。 ハーブの たばや あなうさタバコと おんなじところに。

(おしまい)

Original Text: *The Tale of Benjamin Bunny* (1904)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

ばにばにベンジャミンのはなし

<http://p.booklog.jp/book/32114>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32114>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32114>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.